

2016年9月3日

城崎君救援「司法の今を考える」集会で配布された城崎君の挨拶

「司法の今をかんがえる」という皆様方の趣旨に合致しない点もあるかと思いますが、私が起訴されている《ジャカルタ事件》に関して少し述べさせて下さい。

<1> ジャカルタ事件はダッカでの不当な逮捕状を上塗りするためのものである。

ご存知かと思いますが、1977年のダッカ事件で釈放された6名の1人です。

あの釈放は、時の首相福田の名言(迷言)「人命は地球より重し」に沿って、時の法相の指示でなされました。といっても「救援機」から出るまではずっと手錠でしたが。

しかるにその事件が一件落着いたところで、私ら6人に対して(獄中へ)戻ってこいという命令が出されたのです。司法官僚共が首相-法相の指揮をひっくり返した。いいかえるなら反逆し国際手配したのです。

<2> 奪還に応じたから「日本赤軍」になった！という決めつけ。

私がかって属していた赤軍派は69年の7.6事件で共産主義者同盟を割りました。この時数か月前の4.28闘争で破防法手配になっていた同盟議長、仏氏を半殺しにし、拉致しようとしたけれど機動隊が駆けつけてきたので放置して逃げ、結果的に仏氏を官憲の手に渡してしまったのです。私は当時倉敷で、同盟とのコンタクトなしに反戦運動をしていました。7.6事件のことを知ったのは大分後のことでしたが「内ゲバ」と聞いた時(9.1全国全共闘会議場であったような双方がゲバ棒を振り回しての乱闘で、仕掛けたのは赤軍派、その際負傷した仏氏が捕まった、それはやっぱりまずいなあ)といったものでした。他方その内ゲバの結果(同志社大)の「望っちゃん」が殺されてしまった。と聞いた(伝えてくれたのは「よど号」メンバーの一人)これが私を赤軍派へと突き動かしたと言っていいでしょう。

ともあれ、そういう過去があったので、日本赤軍の言っていることだけを真に受けてそのメンバーになることは無理でした。

加えてしばらくして、シオニストの南部への侵略がありましたが、日本赤軍メンバーはそれ程緊張しているようには感じられませんでした。(ひょっとしたらパレスチナ革命自体がそれほど深刻に受け止められていなかったのでしょう。後に彼等の中で活動してみて、彼らがすごく楽天的なことに舌をまいたものです。)

ともあれ、〈ダッカ事件で奪還に応じたから日本赤軍メンバーになったこと間違いない〉といった元公安一課の高橋正一の証言は公安(警察等)のきめつけを自己暴露するだけです。あえて付言すれば唯一レバノンへの亡命が認められた岡本公三氏はPFLP-GCの奪還作戦でシオニストの獄中から解放されたにもかかわらず、この国の警察はGCのメンバーとしてではなく、日本赤軍のメンバーとして手配しているのは連中の論理破たんを自己暴露するものです。

<3>ではレバノンでなにをしていたのか

日本赤軍は私(など)をメンバーへとオルグしようとしたけど、そんなことに無駄骨を折ってもしようがないと判断したのでしょう。PFLPでボランティア戦士にならないかと持ちかけてきました。すでに和光氏がそういう道をひらいており、私もそれを追うようにボランティアゲリラになったのです。と言っても言葉がわかるわけでもなく足手まといになりながらの日々でした。

82年のシオニストの侵略に生き延びた、その具体例になるかもしれません。82年には早くから「民族動員」をかけていたのですが、(1)それが長引くなかでルーズになっていきました。(2)又、侵略はせいぜいリタニ川(国境から25km以内)というヨミもあって、私は南部を離れベイルートで休暇となっていました。そんな中でシャティーラのPFLPの本部に行ったところ顔見知りの軍の運転手に呼びかけられ、彼の車に乗ったのです。

すぐ近くへ行くだけ(例えば隣のキャンプ)と思っていたら北部のナハルエルバルドキャンプまで行ってしまいました。更にその友人は車の事故を起こし何日かの修理が必要になったのです。そんな中でシオニストの侵攻が開始され、…結局私は北部からベカーへと転戦、まあくつついていた程度です。ともかくベイルートでの苦しい日々とは無縁でした。

<4> 2月のジックス、86年2月の目のケガ

83年からだったと思いますが2月に決まったようにケガをしました。一番大きかったのは84年で夜間の「突出陣地」の立哨中に、わずか5mのところ60mm迫撃砲弾が落下。それで右膝のすぐ上のところの肉をそがれてしまいました。体幹部にあの破片が当たっていたら、あの世往きだったかもしれません。この回復にはかなりの月日がかかり、私は後方のベースでのんびりと歩哨をしていました。6ヶ月たってもう大丈夫とうと思ったけれど皆に混じって訓練し、膝撃ちをしたらひっくり返ってしまいました。そんな中で多連装ロケット砲の訓練を受け、以降主に砲兵隊に。

86年2月、私はサイダ地区の西方、「セキュリティゾーン」の突出部ジェズインと対峙する形で、ロケット砲隊に居ました。尚ロケット砲隊は基本的に同じ陣地にいるのではなく、わりとひんぱんに移動していました。

そんなある日、丸岡氏が私を訪れて来ました。彼は何故やってきたのかをもしもじして言わなかったもので、私はてっきり《日本から彼らの友人やってくる予定だがその折には私は顔を隠して欲しい》旨伝えに来たのだと早合点しました。それなら丸岡氏を最前線部隊などへ紹介しておいた方が良く、そうすればその訪問が何日後になるにせよ、少なからぬパレスティナ戦士が「ニザール丸さんよくやってきた」と挨拶するだろうし、日本からに訪問者には「ああ丸岡氏はいろんな前線で知られているんだな」となるからです。

それで最前線のベースへ行って、銃眼から敵陣の説明などしていたのです。そんな時どこから飛んできたのか砲弾が一発近くで爆発、その爆風で私らは二人とも目をやられました。難民キャンプのクリニックへ連れて行ってもらい目を洗ってもらいそこで一泊。隣り合わせで寝ているとき、丸岡氏がなぜやってきたのか知って苦笑しました。まさか山田が警視庁へ投降なんて私の思考の外に外にあったからであり、そんなこと考えず丸岡氏のための全線視察が眼のケガになったからです。

目を洗ってもらった丈で翌朝まっかな目をして私は元の部隊へ戻ったのですが一応何とか見え

るけど眼の中央部に空白がふわふわしたり、黒点動き回ったり、綿棒のようなものがふわふわといった状況でした。ほぼ3ヶ月そんな状況が続き、食事当番なんかで包丁を使うとよく手をきったものです。当然皆は嫌がり結果的に私は容易に休暇をとれました。

そうゆう状況下で私は軍用車を利用して軍の本部(ベカーのジャラーラ)へ行きましたがS14 でした。そこで某国の革命組織から来ていた同志がIRAがサッチャー暗殺を試みたというがどうしてそんな長期のタイマーが可能なのか、バレリアスの電気店や時計店を調査してみようと言ってきたので共に出かけました。このとき話題に上ったのはその長期タイマー、チェルノヴィリ事故が中心でした。笑い話めきます私ハプレジデントホテルでもちいられたなんてタイマーなんて知らなかったのです。ジャラーラへ戻ったところでパレスチナ人からジャカルタ事件(私らにはカルカッタ事件と聞こえた)云々と伝え聞き、私らはBBCのラジオニュースを聞いたものです。

<5> ジャカルタ事件のまやかし、不可思議

- ① 少しまえに述べたように、私はジャカルタ事件が発生した当時、レバノンにパレスチナ革命の一兵士としていました。目のケガが後を引きとても作戦に参加できる状況ではなかったのです。仮に配線みすをおかせば自爆ということさえ起こりあたからです。にもかかわらずプレジデントホテルの受付嬢は、私と5.7 および 5.10 の2回あっているというのです。
- ② でも、5,7 に「菊池」に会った。レンタカー会社の受付嬢の語る「菊池」とホテルの受付嬢の「菊池」にはすごい違いがあります。一例だけですが当時私は38歳で「菊池」は23歳でした。が一人は学生風と言い他のひとり30過ぎと証言していますお笑いです。
- ③ ホテルの受付嬢は当日、日本の警察から日本赤軍の国際手配ポスター渡されよくみておくように・・と言われたとか。要はこれか日本赤軍による犯行だという見込み捜査、決めつけがなされています。
- ④ インドネシア警察は、日本大使館およびUS大使館で用いられた発射管を入れる箱を作った大工から調書をとっています。この大工はなんと「菊池」と思しき人物と3回も接触会話したのですが、なぜかこの大工の調書は一つのみでかつその後大工は行方不明となっています。従ってワシントンDCでの裁判時には全く話題になっていません。更に今、DC裁判時にあやふやな証言をしたレンタカー会社の受付嬢が行方不明だというのです。
- ⑤ US大使館のセキュリティ担当者は、即インドネシア警察に電話し、爆弾処理班を要求し、その処理班しか大使館構内にはいれませんでした。他方日本大使館では、そのような対処は全くしておらず不発弾のすぐ近くに毎日新聞の記者立っている写真があります。更にははす向かいのホテルの827号室に爆弾処理班が出動してきていたにもかかわらず、大使館の不発弾の回収に来たのはホテルのセキュリティ(アウルデインという学生)でした。これは読売新聞にその写真が載っています。又827号室からは2発が撃たれた様子だというのに一発を回収して「おわり！」にしていました。<もう一発は、翌日(後方ノ)ソビエト大使館敷地内で発見、回収されています。>
- ⑥ 827号室のデスク&ドレッサーの初期写真には缶が写っていなかったり、別の写真では、黒っぽい缶が2つ写っていたりしました。ところが、よく15日に鑑識班が行ったら幾つかの缶が出てきて、そのうちの一つ及びランプの支柱から、私の指紋が発見されたというのです。が発見を

示す接写写真もなければ物証もありません。更に言えば、ミニバーの採手やテレビのスイッチ、トイレのレバー等々の指紋も完全に無視されています

- ⑦ インドネシア警察が採取した指紋は計 19 だそうです。まずFAXで東京へ送ろうとうまくいかず5.28になってようやくコピーをおくっています。ところが(私の指紋と照合)という発表は6.21、すごいゆっくり発表でした。83年以来コンピューター化されすごく早くなったのに！
- ⑧ そしてなぜか松丸氏の証拠によれば、この86年5月、及び6月の指紋ネガ(コピー)の動向が消されていてDC発送のために合衆国へと移送されたのが初めて・・という風になってなっています。
- ⑨ 加えて松丸説では、ICPO手配から827号室の指紋を転写することは不可能で、69年の(岡山県)水島署のものと合わせないと12ケの合致は出来ないと言い続けていました。でもFBIは合致すると言っていたのです。そんなこともあって松丸氏は最近自説をひっこめた様子です。一体84年時の鑑識はどうやって私の指紋と鑑定したのかと思わざるを得ません。
- ⑩ 彼らのストーリーによると私は5月7日から14日まで1週間近く827号室にいたというのですが1Fや2Fならば別としても8Fであれば窓の外の景色が記憶に残ってしかるべきでしょう。しかしDCで見せられたのは西南方向にある日本大使館とその後方のソビエト大使館という写真のみでした。昨年検察官から見せられた当時の地図ではホテルの向かい側には特記なし。つまりジャングルか空き地か小商店、民家などの可能性となるのですがさっぱり不明、でも現地採用の大使館員がDC法廷で言っていたのでは大使館の南方にオーストラリア大使館ということでした。それがなんと5F建てのものとしてびっくり。とはいえやはりホテルの対面の獄一部で大部分空白のまま。そしてあろうことか証拠開示の地図、写真は2000年以降のものばかりで当時とは大きく様変わりしています。何故事件当時のものを開示できないのか。(??)と不思議に思わざるを得ず。事実を隠したいからか？！

<6> DC法廷で、何故証言台に立たなかったのか

パレスティナ革命戦士のほとんどはゲリラ名を用い時にはそれを変えたりしています(私自身名前を変えたり国籍をかえたりしました)従ってよく知った戦友でも本名は不明加えてレバノンの情勢が大きく変わっています。というわけで証人喚問は不可。

私自身の証言(その気は十分にあったが)には2つの大きな問題がある。と向こうの弁護士が言いました。一つは70年代初の「M作戦」のことをしつこく糺す。これは陪審員に悪印象を与える。今一つは指紋で、これについて衝かれたら答えられない(私が指紋転写について知ったのは判決以降でした)そういう事情から証言台に立たなかったのです。

<7> 合衆国の法システム

DCの裁判では私が合衆国大使館攻撃を担ったという証拠はなく、状況証拠を並べて疑わしいとしました。それ故にプレジデントホテル827号室はもちろんのことに米大使館、ソビエト大使館、カナダ大使館、などにかかなりの時間を費やしました。これは川村弁護士が調べてくれたことですが日本やカナダ大使館の罪は問わないが判決、量刑には組み込むというのが向こうのシステムだそうです。ということは一事不再理の原則に反することになります。

<8> 刑訴法改悪<<司法取引>>に関して

私はFBIに捕まった当初というより8か月間、87年ノローマ裁判デイタリアからも手配されていると思っていました。イタリアには欠席裁判という違ったシステムがあり、私はすでに無罪判決が出ていたのですがそういう事を知らなかったのです。向こうの弁護士はイタリアのことを知りつつFBI、検察当局と協力して私を問い詰めたのです。

その発端になったのは、アルメニアの革命組織の中堅メンバーが亡命投降仕手いろいろあることないことをしゃべった中に、私とその男に<ローマ事件をやったのは自分だ>というのがあったそうです。しかしそれ以上の「事実」などなくFBIはそのローマのホテル風呂場かどこかに残っていた足形で判定しようということになり私は足跡取りというおかしなことをやられました。その結果は当然のことながら足形が違うのでこれ以上の追及は不可)となったのです。

これは刑訴法が改悪されて「司法取引」が可となればとんでもない「密告」がありうるという一例になるのではないかと案じています。すでに全然違う服装や体形の者でも公安当局に転んでありもしないことを密告する(でっちあげる)という例がこの国でも少なからず発生していることから、あえて私のDC法廷での具体例を示しました。

以上皆様方の趣旨に合致しないことが多々あると思うし、同時に舌足らずなことが多いと思いますがお許しください。

2016.8 末 城崎生

PS ご存知かとおもいますが、私は75. 2.20に三里塚に連れてこられた直後から接見禁止になっています。最初は①住所不定 ②証拠隠滅のおそれだったのですが連邦刑務所出獄時に住所は伝えてあり一応それで認められている旨抗議したところ、それは消失し証拠隠滅のおそれ「だけ？」となっています。

しかし実際には証拠隠滅を策しているのは権力の側なのですからなにおか言わんや！です。